

会議結果報告書

1. 会 議 名 平成 30 年度 第 1 回 印西市環境審議会
2. 日 時 平成 30 年 11 月 7 日(水) 14:00～16:00
3. 場 所 印西市役所 2 階 24 会議室
4. 出席者 委 員：藤田、鈴木(康)、岩井、片倉、坂本、室井、鶴岡、江畑、山本、渡邊
※欠席／阿部
事務局：板倉（市長）、高橋（環境経済部長）、細谷（環境保全課長）、
黒田、海老原（環境保全課 保全係）、瀬口、増山（エヌエス環境）

5. 配布資料

- ・平成 30 年度 第 1 回印西市環境審議会 会議次第
- ・平成 30 年度 第 1 回印西市環境審議会 席次表
- ・印西市環境審議会委員名簿
- ・印西市環境審議会条例
- ・印西市環境基本計画
- ・印西市環境行動指針～市民編～
- ・印西市環境白書 2018（案）
- ・印西市環境審議会からの意見記入表

6. 内 容

- (1) 開 会
- (2) 委嘱書交付
- (3) 市長挨拶
- (4) 会長挨拶
- (5) 自己紹介
- (6) 議題

1) 「印西市環境基本計画」について

(会 長) 議題 (1) 印西市環境基本計画について、何か意見があれば伺いたい。

(委 員) 来年度から森林環境譲与税が市に支給されるが、現時点で環境整備や里山保全に活用する計画はあるのか。

(事務局) 具体的な使い道等については県から示される予定であるが、現時点では示され

ていない。示された段階で市としてどのように活用していくのか、また環境基本計画にどのように反映するのか等を検討したい。

(委員) 管轄となる県の部署はどこか。

(事務局) 農林水産関係の部署になる。

2) 「印西市環境白書 2018 (案)」について

(会長) 印西市環境白書 2018 (案) について何か意見があれば伺いたい。

(委員) 市内エコプランでは温室効果ガスの削減目標が掲げられており、国が平成 30 年に 40%削減を目標にしているが、市が行うには難しい。国の示す目標にこだわっていると現実と乖離する。

エネルギー使用量の削減は大事なことはあるが、温室効果ガス排出量については、国の基準にこだわらず現実的な評価や書き方などを工夫したほうが良いと思う。

(事務局) 排出係数の見直しや積極的な設備改修を検討し、削減目標を達成したいと考えている。

(委員) 家庭用ソーラーパネルは補助の対象になっているが、農地においてはどのように考えているのか。

(事務局) 印西市内でも農地や里山を切り開いて開発するところが増えており、景観を損ねる等の問題になっている。今年度策定を進めている「景観条例」の中に規制等を盛り込む。また、太陽光発電の在り方については景観条例とは別に検討を重ねている。

(会長) 農地を有効活用しながら太陽光発電を行うソーラーシェアリングについて市の意見を伺いたい。

(事務局) 市の担当部局としては農政課になると思うが、現時点では補助等の検討には至っていない。

(委員) 太陽光発電の柱や配線の影響で、水田が日陰になり、作物が育たないという事例を聞いている。また、農地に太陽光発電を設置することは基本的には違法であり、設置要件がクリアできずに許可が下りないという問題もある。農業従事者が高齢化で減少し、遊休農地が増え、農業そのものが減っている中で、ソーラーシェアリングが収益ある事業として実現化するとは考えにくい。

(委員) 今の太陽光パネルの設置について、遊休農地等を有効活用するのは良いが、自然を壊して設置するケースが増えており懸念している。

(委員) 今まで土地を賃貸して設置するケースが多かったが、現在は農地を買い上げて設置するケースが増えている。しかし、管理が悪く一部の太陽光発電業者は事業の採算が取れず倒産しているところもある。また、耐用年数を過ぎた太陽光パネルをどう処分するかという問題が新たに出てきている。特に多いのが印旛地域

である。南側の斜面林を利用しており、集中豪雨などによる土砂くずれの対策もせず設置しているケースも見られ心配している。

(委員) 残土の埋め立てによる師戸川の水質の悪化も問題である。印旛地域については谷津田の埋め立てが進んでおり、それが師戸川の汚染の原因ではないのか。

(事務局) 平成 29 年に印西市の残土条例が施行され、200 m³以上の埋立には市への届出が必要になった。条例の施行後に 10 件の申請を受理したが問題なく終了している。平成 30 年度については協議中の案件もあり、市としては事業計画が適正か慎重に判断していく。

(委員) 自然環境調査について、平成 27 年度に行われているが、今後実施される予定はあるのか。

(事務局) 次回は平成 32 年度を予定している。

(委員) 有害鳥獣の捕獲数を掲載しているが、それに併せて農作物の被害額を掲載するとわかりやすいのではないか。

(事務局) 捕獲申請のあったものについて、被害額を把握しているものと思われる。

(委員) JA 木更津が実験的にロボットを使ってイノシシの追い払いをしている話を以前したが、成果が出ており食害が減っていると聞いている。一般向けに貸し出しも行っている。

(会長) 市外の人にイノシシやカミツキガメの状況を聞かれることが多々ある。

(委員) 特定外来生物に関しては、印旛沼のカミツキガメについての話をよく聞くが、最近手賀沼にも被害は広がっているようで、その状況を市は把握しているのか。

(事務局) 手賀沼流域では亀成川で捕獲した経緯がある。しかし、手賀沼での捕獲については情報を得ていない。

(委員) 手賀沼流域にもカミツキガメがいることを一般市民に注意喚起することで、市民からの情報を得られるのではないか。カミツキガメの被害を未然に防ぐためにも情報の公開をお願いしたい。

(委員) 粗大ごみの有料化について、今後実施される予定はあるのか。

(事務局) 印西市は近隣自治体とともに組合の構成市町となっており、その中で白井市と栄町はすでに有料化になっている。いずれ組合内での一元化ということで、印西市も有料化になると考えている。

(委員) 料金はどれくらいになるのか。

(事務局) 今のところ白井市と栄町も統一されていないが、組合としてやっていくのであれば料金についても一元化の方向に向かう。まだ具体的な話はしていない。

(委員) 今は燃えるごみ、プラスチックごみ、資源ごみ等に分別しているが、さらに細分化することは検討しているのか。

(事務局) この件も組合で行っていることなので、組合と構成市町とで十分に協議したい。また、燃えるごみも各自治体によって有料としているところもあり、その点も含

めて将来的にどうするかを検討していく。

(委員) カミツキガメは本当に危険なのか。実際に人的被害はあるのか。漁師が一度だけ噛みつかれたという話はあったが、それ以外には聞いたことがない。テレビではわざと噛みつかせて見せるが、本来は名前から感じるような凶暴性はない。

(委員) カミツキガメについては水産被害が一番の問題であり、凶暴性についても注意する必要がある。

(会長) 雑紙の回収について、今は大きな紙袋などに入れてその表に「雑紙」と書いて出しておくが、もっと簡単にらせるよう回収用の袋などがあると便利だと思う。雑紙の回収率の向上のために、市で何か検討していることはあるのか。

(委員) 先ほどの話では、もう一つ回収袋を増やすということであったが、ごみの減量化の動きがある世の中で、また袋を増やすというのは減量化に反している。

(事務局) ごみの減量化については定期的に会議を行っており、ごみ減量化のPRも行っている。今のご意見については担当課にも伝えておく。

(委員) 私は中学校の校長という立場なので、特に基本目標 5 に一番関係してくると思っている。子供たちが環境問題に関心を持ち、しっかり理解をして大人になっていく、その支援を担っていく必要があると感じた。

4) その他

(事務局) 環境白書の 9 頁「環境審議会委員からの意見・提案」について、皆様からのご意見をいただきたい。環境白書の第 2 章を中心に再度ご一読いただき、ご意見を別紙に記入のうえ、11 月 30 日の昼までにメール、または FAX もしくは郵送にて提出いただく。次回は、皆様からご提出いただいた意見をまとめていただく会議になる。なお、次回の審議会は 12 月 17 日（月）14 時からを予定している。詳細については、郵送にて通知させていただく。

以上

平成 30 年度第 1 回印西市環境審議会会議録は、事実と相違ないことを承認する。

平成 31 年 2 月 28 日

印西市環境審議会会長 藤 田 尚 美
